第８回あきる野フォトコンテスト作品集

最優秀賞「神戸岩雪景」　　沢井康正　氏　　（撮影地：檜原村）

主　催　　第８回あきる野フォトコンテスト実行委員会
あきる野市教育委員会

協　賛　　一般社団法人　あきる野市観光協会
株式会社　西の風新聞社

後　援　　あきる野商工会
日の出町教育委員会
檜原村教育委員会

第８回あきる野フォトコンテスト

あきる野フォトコンテストは、あきる野市の風景・街並み・行事・史跡・植物などをテーマに、作品を広く市内外から公募した全応募作品を展示・公開することを目的に、あきる野市の生涯学習推進をめざし、文化的で魅力あふれるまちづくりと地域の芸術・文化の振興を目的として、平成 20 年度より隔年で実施し、市民で組織したあきる野フォトコンテスト実行委員会とあきる野市教育委員会との協働により、今回で第８回目を迎えることができました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことから、実行委員会としてフォトコンの実施について協議・検討を重た結果、会場での講評は中止し、作品展及び表彰式は例年通りに開催することといたしました。また、前回と同様にすべての作品に対し、審査員の先生からのコメントを掲載した「作品集」を作成し、全員に配布することといたしました。

さらに、公募にあたり、より多くの方々からの応募を期待し、撮影エリアをあきる野市内だけでなく、秋川流域の日の出町、檜原村にも拡大し、作品を募集することにいたしました。おかげさまであきる野市内をはじめ、市外の皆様より多数ご応募いただき、一般の部が 111 点、中学生以下の部が 40 点の計 151 点の力作が揃い、２月 13 日に審査を行い、一般の部 21 点、中学生以下の部８点の入賞入選作品を決定いたしました。審査員には、藤森邦晃氏（「フォトコン」誌 編集長）並びに小澤太一氏（公益社団法人 日本写真家協会会員）をお願いいたしました。お力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

「作品展」「特別展」さらには、「作品集」や市ＨＰでの画像公開等を通して、多くの方々があきる野市の自然が育む美しさや地域の優しさ、郷土愛を感じていただけることと存じます。

皆様方から寄せられたご意見やご要望を踏まえ、次回、2025 年の第９回あきる野フォトコンテストの開催に向けて努力して参りますので、今後ともご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

第８回あきる野フォトコンテスト実行委員会・あきる野市教育委員会

▼公募期間　令和５年２月３日（金）～5日（日）
▼応募総数　１５１点（一般の部１１１点、中学生以下の部４０点）
▼応募者数　９６人（市内７６人、市外２０人）
▼審 査 日　令和５年２月１３日（月）
▼入賞・入選者　２９人（市内２０人、市外９人）
一　般　の 部　最優秀賞１点、優秀賞２点、入選６点、佳作１２点
中学生以下の部　優秀賞１点、奨励賞２点、努力賞５点
▼作 品 展　令和５年３月２２日（水）～２６日（日）　あきる野ルピア４階展示室
▼特 別 展　令和５年３月２７日（月）～３１日（金）　市役所１階コミュニティホール

第８回あきる野フォトコンテスト実行委員会メンバー（順不同）

尾崎敏夫（フォトサークルあきる野）	青木一司（五日市フォトクラブ）
石原　潤（寿大学写真クラブ）	岡野健一（三多摩写真連合 ルピアの会）
河村貞和（ベルエポック 一眼レフの会）	鈴木保博（三多摩写真連合 ルピアの会）
小林　徹（秋川フォトクラブ）	北村賢市（野辺写友会）
金子保男（野辺写友会）	杉本修三（フォトサークルあきる野）
岡谷榮木（デジタル イメージング サークル）	角南英夫（i-Photo Club）

第８回あきる野フォトコンテスト作品審査にあたって

審査員：藤森　邦晃　氏
（株式会社日本写真企画　月刊誌「フォトコン」編集長）

　応募対象エリアが広がったということで新しい写真も応募され、新鮮に感じられました。コロナ禍の影響もあると思いますが、いつもは迫力のある祭り写真も多くみられたのですが、今回は少なく感じたのは残念でした。この地域に住む人たちが自分たちの街の良さを伝えようとするこのコンテストはものすごい意義のあるものだと思って審査させていただいております。もちろん他地域の写真愛好家が来ても、被写体豊富なエリアだと感じることでしょう。その魅力が応募作品から伝わってきました。次回に向けて、もっともっと地元を歩いてみてください。これまでのこのコンテストで見たことがないような光景がまだまだあるはずです。そしてそこへ何度も通ってみてください。きっと素敵な表情を見せてくれる日があるはずです。地元を見つめることがもし写真生活におけるライフワークになったとしたら、素晴らしい人生を送れるはずです。

審査員：小澤　太一　氏
（写真家、公益社団法人日本写真家協会会員）

　これまであきる野フォトコンテストを何回か審査させてもらった中で、今年は例年以上に面白い作品が多かったと感じました。今までよりも撮影場所が広がったことによるエリア的な要素もきっとその一因でしょうが、それだけではなく、それぞれの人の中で何をどう見せたいのか、というのが強くわかる写真が多かったことも見逃せません。ただシャッターを押しただけの写真と、いろいろ考えながら撮った写真とでは、やはり写真の中に詰め込めるものの密度が違ってくると思います。小さな努力や思考の積み重ねが、結果としての写真の力強さにも繋がるはずです。

　またプリントの調子がよい作品も多かったと思います。撮るだけでなく、しっかり適切に画像処理を施し、いいプリント用紙に丁寧に印刷する。これら基本的な部分がしっかりできていれば、おのずといい作品に仕上がります。そしていいプリントからは、写真の中身もしっかり伝わってくるものです。撮るだけでなく、プリントにもぜひこだわってみてください。

一般の部

最優秀賞「神戸岩雪景」　沢井康正　氏（撮影地：檜原村）

【講評】今回から撮影エリアが広がったことにより檜原村の作品も審査対象になり、今までにない作品が多数見られました。なかでもこの作品は、霧氷がびっしり付いてまるで東京とは思えない光景に驚かされました。また感動の光景に出合い、興奮しての撮影だったかと思いますが、視線が画面中央に集まるという構図の作り方もいいですし、雪がはらっと落ちたタイミングで撮ることができ、さらには光線状態も良いので舞い落ちる雪が輝いて見え、写真が生き生きしています。最初に見た時からこれがいいなと思うほどの作品で、最優秀賞にふさわしい一枚でした。（藤森）

【講評】凍てつくような寒さを感じる素敵な写真ですね。風か何かで雪が舞った一瞬の時間がすごく印象的に捉えられていると思います。この作品の中には二つの時間が入ってるいるように感じます。一つはこの雪が舞った一瞬の短い時間と、もう一つはこの雪景色がいつまでも続くかのような、もう少し長く感じられる時間。その二つの時間が一つの写真に同居しているところがすごく神秘的でもあり、写真表現としても面白い時間の流れが写ってるなと思いました。ハイライトからシャドウまでが白飛びも黒つぶれもなく、とても綺麗なトーンでまとまっています。それでいてフラットではなくドラマチックな光が画面の中に奥行きを作ってるのもよかったんじゃないかなと思います。（小澤）

優秀賞「流れは絶えず永久に伝承」松本かすみ氏（撮影地：あきる野市）

【講評】手前だけでなく、奥でもどんど焼きをしていて、それぞれの地区ごとに正月の風物詩を伝承していることが伝わってきました。これは写真の記録する力を見せてくれていると思います。タイトルは「流れは絶えず永久に伝承」となっていますが、時間の流れを川の流れと絡めて見せているところに奥深さを感じます。しかも水面に映る炎から視線が誘導されるように奥へと向かうので、奥行き感のある表現になっています。細かいところを言うと、炎の露出と背景の明るさのバランスがよく、どちらの表情も的確に見せることができています。（藤森）

【講評】この作品には二つの対比がすごく面白く写っています。主役である手前の大きな炎と、奥にも小さく脇役としてもう一つ炎を配置することによって、画面の空間がしっかりまとまっています。そして水面に映り込んでいる炎まで、よく被写体を観察されているなと感じました。作者の視点の興味や広がりを、プリントで見る側にもしっかり感じさせてくれています。主役を大きく撮るのではなく、少し引いて小さな主役をまとめつつ構図を作るにはテクニックやセンスが必要なものですが、作者はそのバランス感覚もすごくいい方なんじゃないかなということが、この絶妙な構図の作り方から感じられました。（小澤）

優秀賞「静寂」　柳川卓哉氏　（撮影地：檜原村千足）

【講評】おそらくそれほど大きな渓流ではないと思いますが、縦位置で切り取り、渓流を小さく入れて、上に伸びる木の幹をシルエットで２本配置し、山の奥深さをうまく表現することができました。光の扱い方が非常に良く、上部には霧の向こうに太陽があり、そこからの優しい光が新緑に当たり幻想的な雰囲気すら感じられます。少し遅めのシャッタースピードによって流れる音も聞こえてきますし、プリントの仕上げもよく、この渓流にいるような臨場感がうまく伝わってきます。（藤森）

【講評】深くて神秘的な緑がとても印象的な写真です。プリントする際に適度に画像調整をしていると思いますが、そのテクニックのうまさも感じられます。だからこそ、見た瞬間にこれはすごく素敵な写真だな、と感じました。中央の木と滝の流れを中心に、縦構図にまとめて高さや奥行きを表現したこともよかったと思います。ハイライトからシャドウまでのトーンの繋がりも美しいです。（小澤）

入選：「シークレット花火」 宮田裕介氏 （撮影地：勝峰山（日の出町）花火打ち上げ場所西多摩霊園）

【講評】スカイツリーを右に、花火を左にということで、画面に二つの主役級の被写体があるのですが、スケール感の大きい捉え方によってどちらが主役ということではなく、全体の雰囲気で語る写真になっています。シークレット花火ということで、狙って撮れるものではないのかもしれませんが、この写真を見たら、ここへ撮りにきたくなる一枚ですね。写真が観光にも寄与することがあるのですが、そんな力を感じます。（藤森）

入選：「母の願い」　岩田満氏
（撮影地：あきる野市大悲願寺）

【講評】母さんがいて獅子舞の頭を持ってる人、それから真ん中に主役の赤ちゃんということで、縦に構成されていますが、上下の大人は画面の途中で切れていることによって脇役となり、真ん中の赤ちゃんが主役であることがひと目で伝わります。表情も怖がっている一番いいタイミングで撮ることができてますし、お母さんの顔は半分しか見えていませんが嬉しそうな表情にも想像でき、ストーリー性のある作品です。（藤森）

入選：「渓谷に響き渡る祭囃子」　中山靖氏　（撮影地：あきる野市正一位岩走神社）

【講評】祭りの写真はいくつかありましたが、夜の雰囲気を感じさせて目を引きました。集落での祭りだと思いますが、空に青い色が残っている時間帯で撮れていることで色彩的にも変化がつき、山車の赤色と対比できています。主役の山車と脇役の山車の配置も的確で画面に奥行感を生んでいます。（藤森）

入選：「足取り軽く」　　守谷千恵氏　　（撮影地：あきる野市網代）

【講評】白や紫の花が咲いているいい舞台を選んでいます。そこにポイントとなる赤い鳥居がありますが、奥に伸びていく道に男性と女性が二人で歩いていくということでストーリー性のある作品になっています。タイトルの通り「足取り軽く」というイメージは咲き誇る花を見ながらワクワクする気持ちからでしょう。花咲く部分で画面全体を覆っている中に人物を小さく配置したことで外まで花が広がっているかのような構成になっているのもいいですね。（藤森）

入選：「紅葉に包まれて」　　吉野敬子氏　　（撮影地：檜原村）

【講評】緑や赤、黄色の色鮮やかな木々に囲まれて、とても見事な紅葉のシーンですね。画面の隅々まで木をぎっしり入れた構図もいいですし、小さく建物や橋を入れたことで、大自然の中に包まれている感じもよく伝わってきます。河原の流れをうまく配置することで、構図の中に奥行きを作ることもできました。バランス感覚の良さを感じる１枚となりました。（小澤）

入選：「家族の思い出」　　角南英夫氏　　（撮影地：あきる野市五日市）

【講評】縁日の様子を夕方の空の色が残る時間帯を選んでいることで画面に奥行き感が出ただけでなく、色彩的にも目を引く作品になりました。またポイントとして、おじいちゃんとお孫さんが画面中央で主役となって手を繋いでいますが、おじいちゃんがお孫さんを優しく見つめる目線が実によく、この写真の決め手となっています。主役にグッと寄りたくなるところを広角レンズで広くとらえたのも縁日の雰囲気を伝える力になっています。（藤森）

佳作：「陽春」　　尾崎敏夫氏

（撮影地：あきる野市草花公園）

【講評】桜と新緑の組み合わせでしょうか、季節が折り重なる素敵な写真ですね。綺麗な葉っぱが逆光で輝いているので写真がイキイキしていますし、そこに銅像と家族を対角線上に配置したのもバランスの良さを感じます。画面上部の桜と新緑をそれぞれ途中で切ったフレーミングにしているのですごく大きな木にも感じられて、空間をうまく切り取ることができています。（藤森）

佳作：「時代の流れに」　　上塚恭子氏

（撮影地：あきる野市）

【講評】お祭りの写真としてそれぞれ四人の違う動きが写っているのが面白いですし、アングルがやや低めから撮られてるところも臨場感があっていいと思います。シャッター速度を遅めにしているのか、特に一番手前の人物の動きが比較的大きく、躍動感があってよかったです。それぞれの人の足元にもちょっとした動きの違いがあって、シャッターチャンスとしては良い瞬間を切り取ってると思います。地面に無数に落ちてしまっている白い紙も、画面の広がりを生む結果に繋がってるなと思いました。（小澤）

佳作：「天の川（７月）」　　杉浦澄男氏

（撮影地：檜原村倉掛）

【講評】東京都でも、これだけ星が見えるんだという驚きを与えてくれる作品です。カメラの性能が良くなり、都心でも星の写真は撮れるのですが、このエリアまで来ると、天の川もくっきり見えてくるというのは魅力です。縦位置で対角線に天の川を入れていますが、それだけでは単調になるので手前にシルエットにした木を入れることで高さを表現することができました。（藤森）

佳作：「これちょうだい」　　石原潤氏　　（撮影地：五日市）

【講評】この辺では有名なヨルイチの写真ですね。たくさんの人が写っているけれども、それぞれの人に当たってる光がちょっとずつ違って、いろいろな人に感情移入できるところがこの写真の面白いところだと思います。誰もが主役になり得るし、この写真を見た時に誰を見るのか、どの人を主役に捉えるのかによって、写真のストーリー性がちょっとずつ違って見える、そんな多様性がある瞬間のように見えるのが面白いんじゃないかなと思います。全体的にちょっと暗く写っていますが、それによって周りまではっきり見えなくなり、結果として想像力が膨らむのも良かったと思います。（小澤）

佳作：「晩秋のトラック」　　染矢康裕氏　　（撮影地：秋留台公園）

【講評】広角っぽいレンズを使って広がりがある競技場が写っている写真ですが、そこに走っている人を配置するワンポイントの入れ方がよかったです。広い風景と小さな人物の対比がすごく目を惹く写真となりました。画面上部に木の枝をバランスよく入れた空間の使い方も、構図としてはすごくしっかりまとまっています。綺麗な斜めからの光を使っていることで色乗りも良く、立体感あふれる写真となりました。またプリントもとても美しい仕上がりになっていることも良かったです。（小澤）

佳作：「静かな訪問者」　　荒井宏之氏
（撮影地：あきる野市）

【講評】雪がこれだけ綺麗に舞った時に人物を配置しながら画面構成をしているのが魅力的な作品です。人物の位置も背景が黒い部分と重なっているので、きちんと浮かび上がって見えてくるのも良かったです。舞っている雪の細かな部分がプリントからもよく伝わってきます。雪の質感がしっかり写っていることで、臨場感がある写真に仕上がっています。（小澤）

佳作：「人里の桜」　　山﨑惇夫氏

（撮影地：檜原村人里）

【講評】立派に咲き誇った見頃の桜と、そこを通るバスを入れることで素敵な里山の風景が魅力的な写真です。順光の力強い光が綺麗に被写体に回っているので、写真がとても色彩あふれるカラフルな印象になっています。バスを小さく、隅の方に入れたことも、郊外の雄大な自然の広がりを感じさせる結果となり良かったと思います。（小澤）

佳作：「しんしんと」　　中村浩士氏

（撮影地：龍珠院）

【講評】この地域は都心と比べると雪が多いんだなというのを感じさせます。特徴的な古民家の屋根を背景にし、手前に樹齢何年になるのか、大きな木を配置して、力強い画面構成になっています。それに加えてしんしんと降る雪が的確なシャッター速度でとらえられているので、現場の雰囲気がよく伝わってきます。暗い部分は雪がしっかりと描写されることを意識しての画面構成なのでしょう。画面の隅までしっかりと気配りのできた格調高い作品です。（藤森）

佳作：「黄昏刻」　　小林徹氏

（撮影地：あきる野市）

【講評】シルエットの写真でとても綺麗な光です。葉っぱの形がよく見えるような主役と背景の重なりもよかったです。葉っぱと虫という二つの主役をどちらにもピントが合うように適切な角度で切り取っているのもよかったんじゃないかなと思います。またアンダーな露出にしたことによって、秋の切ない時間帯、暮れゆく最後の光っていうのが写真から感じられました。虫を小さく配置したことで、葉っぱの大きさを見せることに繋がって良いと思いました。（小澤）

佳作：「一条の光」　　中山光氏　　（撮影地：三内　天竺山山頂　初日の出）

【講評】この写真を見た時にちょっと変わったプリント紙の質感を選んでいるところに、僕はとても興味を持ちました。多くの人が光沢の紙を使っている中で、この人はマットの紙を使っているんです。だからこそ写真の表面がすごく独特な風合いを伴っていて、それがアート性があるようにも見え、目を惹く部分だなと感じました。初日の出の様子ということですが、太陽が昇ってくる瞬間に人が集まっている、その人たちが逆光のラインライトが印象的だったり、シルエットになっていたりと、見応えのある露出で捉えているのも良かったですし、画面内のバランスもうまくまとめています。強烈な光が絵の中に飛び込んできてゴーストが出てることも、写真の表現的に見たら、とてもインパクトがあって良い部分だと思います。（小澤）

佳作：「役になりきる」　　北田昇司氏
（撮影地：キララホール楽屋）

【講評】地元に残る行事を地元の写真愛好家が写真で残すというのはすごく大切な行為だと思います。鏡に映る少年が化粧をするところを丸い鏡を活かして撮っていますが、片目だけだったことで写真に強さが出ました。いままさに塗ろうとしている瞬間をとらえたのもいいですね。無駄のないフレーミングで印象の強い 1 枚になっています。（藤森）

佳作：「ひと休み」　　荒川美幸氏　（撮影地：平井川桜並木）

【講評】とても優しい雰囲気がプリントから感じられて、見ていてすごくホッとする温かい気持ちになった写真です。写っている主役の子供の雰囲気と背景の満開の桜、そしてやわらかい光の組合せが最高に素敵な一瞬です。平井川ののんびりした時間が写っているんじゃないかなと思います。おそらくお子さんだと思うんですが、個人的な家族写真を誰が見てもこれはいいなと思えるようにまとめるのはとても難しいことですが、この写真には誰が見ても素敵だなと思える部分が多いでしょう。そんなことができるのは作者の写真のテクニックと、センスの良さ、そして被写体の力があったからだと思います。（小澤）

中学生以下の部

優秀賞「6 才の挑戦」　萩原環　さん（撮影地：秋川）

【講評】審査会場に入ってすぐに目に飛び込んできたほどのインパクトがある作品でした。写真の大事な要素であるタイミングがドンピシャリで、釣られた魚が身体をまさにくの字にしていることで画面の中で小さな存在ですが目を引きます。最近はスマホで縦位置に慣れていることもあるのでしょうか。このシーンを縦位置にしていることも高い評価に繋がりました。横位置だと無駄な空間が生まれ、ここまで主張してこなかったでしょう。左にちょっと不要なものが見えているのが残念ですが、それ以上の力強さがある見事な作品でした。（藤森）

【講評】ど真ん中に人物を配置することで、構図の力強さが出ました。竹竿が中途半端に切れたり、足元のスペースに余裕が無かったりと惜しい部分もいくつかあるのですが、ただそれが故に吊り上げた魚に目がいく結果にもなっていると思います。主役が小さく入れた魚だからこそ、この構図でも成り立ってるかなとあらためて感じました。光にも立体感がありますね。背景の川の緑色に対して白いＴシャツと、色の対比も上手に使っているからこそ、人物が浮かび上がってしっかり伝わってきます。吊り上げた一瞬のシャッターチャンスを逃さずに写真におさめることができた瞬発力もなかなかのものですね。（小澤）

奨励賞：「懐かしい思い出」　　滝井愛菜　さん　　（撮影地：東秋留橋付近）

【講評】なんでもない階段ですが、太陽の光による影がオレンジ色に照らされたことで何か特別なものに見えてきます。画面を斜めにしたことによって急な階段に見えるのも視覚的な変化を生んでいてお面白いですね。奥に空を配置して抜けた空間があるのもいいです。（藤森）

奨励賞：「どこに続くのか、、」　　坂本音心　さん　　（撮影地：秋川渓谷）

【講評】橋の曲線を画面左右の端から入れている構成がよく、グッと奥へ向かっていく印象で視線が画面中央に誘導されます。その先に二人の人物がいてドラマが深まります。縦位置にしたことで奥へ進む感じも強調されています。季節を変えて再度撮ってみたい場面です。（藤森）

努力賞：「公園から見た夕日」　　渡邊真央　さん　　（撮影地：秋留台公園）

【講評】木の向こうに落ちる夕日をとらえていますが、不思議なゴーストがピンク色になって出ていてそれが華やかな雰囲気を見せています。画面を斜めにしますがそれにより 1 日終わり、寂しさのようなものを引き出していて面白い表現になっています。（藤森）

努力賞：「水面に映るあきる野の空」　　江口晃一　さん　　（撮影地：草花公園）

【講評】詩が描けそうなシーンですね。青い空、グリーンの木、それに白い雲という構成で色彩的に目を引きますし、上の東屋を全部入れずに水面への映り込みで見せるというのも印象的です。手前に落ちたシルエットの陰も単調になる画面を上手く引き締めています。（藤森）

＋

努力賞：「鮮やかで孤独な食事」　　原碧依　さん　　（撮影地：秋多中学校）

【講評】いわゆる日の丸構図という主役をど真ん中において、撮りたいものをしっかりと主張しています。シャッタースピードが速すぎない設定だったので、羽が少し動いているところが動きを伝えています。ピント位置も的確で技術的にもしっかりしています。（藤森）

努力賞：「凍った滝」　　宮内麻衣　さん　　（撮影地：檜原村）

【講評】カメラのフィルター効果でしょうか、ジオラマモードでピントがあったライン以外を大きくぼかすことで俯瞰して見ているような雰囲気になっています。一般部門でたくさん滝の写真が出てきましたが、自由な撮り方がいいですね。画面が斜めになっていて、空撮したようなイメージが演出できました。（藤森）

努力賞：「どっちに見える?」　　町田明嶺　さん　　（撮影地：秋多中学校）

【講評】学校の校舎と水たまりでしょうか、そこに青い空を映していますが、不思議な世界観で描いています。実物だけではなく上も見たり、下も見たり、水たまりも含めて視点が自由なのでこういう作品が生まれていると思います。真ん中に映るのは雲でしょうか、これがアクセントになって単調になりそうなこの水面に変化を与えています。（藤森）

一 般 の 部

1「天狗の診察」
鈴木　保博　氏
（撮影地：檜原村）

2「厳冬」
尾崎　敏夫　氏
（撮影地：檜原村　払沢の滝）

3「晩秋の日溜」
尾崎　敏夫　氏
（撮影地：檜原村　浅間嶺）

5「曼珠沙華」
青木　一司　氏
（撮影地：あきる野市小和田）

6「瀬音みち」
青木　一司　氏
（撮影地：五日市小庄）

7「おし鳥捕食」
三宅　悦雄　氏
（撮影地：あきる野市横沢入）

8「コスモスの花咲く頃」
三宅　悦雄　氏
（撮影地：あきる野市）

9「森を駈ける少女」
三宅　悦雄　氏
（撮影地:あきる野市横沢入）

11「春爛漫」
久保　亘　氏
（撮影地:乙津の花の里）

12「秋の彩り」
久保　亘　氏
（撮影地:あきる野市高尾）

13「春の踊り」
木村　利一　氏
（撮影地:あきる野市二宮神社）

16「我慢比べ」
栗原　正和　氏
（撮影地:あきる野市舘谷河川）

17「落城」
栗原　正和　氏
（撮影地:あきる野市舘谷河川）

20「朝のハーモニー」
岩田　満　氏
（撮影地:網代弁天山）

21「鳳凰の舞」
久保　猛磯　氏
（撮影地:日の出町平井　春日神社）

22「古民家の十五夜かざり」
久保　猛磯　氏
（撮影地：五日市郷土館）

23「いやしのヒマワリ」
金子　保男　氏
（撮影地：あきる野市）

27「馬頭さま参り」
浦野　登代子　氏
（撮影地：青木平）

28「無住寺の新年」
浦野　登代子　氏
（撮影地：青木平の陽谷院）

30「秋の広徳寺」
NGUYEN　NGOC　ANH　氏
（撮影地：あきる野市広徳寺）

31「山抱きの大樫」
NGUYEN　NGOC ANH　氏
（撮影地：あきる野市深沢）

32「山の神様」
山田　裕士　氏
（撮影地：檜原村大山祇神社）

34「冬の果実」
山田　裕士　氏
（撮影地：檜原村時坂峠）

36「深山の春」
杉浦　澄男　氏
（撮影地：檜原村藤倉）

37「平井大祭」
杉浦　澄男　氏
（撮影地：日の出町平井　春日神社）

38「養沢の守り神」
沢井　康正　氏
（撮影地：あきる野市養沢）

41「秋川に住む鳥達」
萩原　セツ子　氏
（撮影地：サマーランド対岸）

42「春を待つ秋川」
萩原　セツ子　氏
（撮影地：サマーランド対岸）

43「見事に秋色」
平山　栄男　氏
（撮影地：戸倉しろやまテラス）

44「仏たちの春」
平山　栄男　氏
（撮影地：龍珠院）

49「無病息災を願って」
鈴木　保信　氏
（撮影地：あきる野市山田大橋下の秋川）

50「春の花競演」
鈴木　保信　氏
（撮影地：あきる野市乙津龍珠院）

53「沢戸橋」
福村　建夫　氏
（撮影地：あきる野市戸倉）

54「残雪に鎮座す」
阿部　貢　氏
（撮影地：二宮神社）

56「シンボルとして」
染矢　康裕　氏
（撮影地：秋留台公園）

57「うれしいネ！」
染矢　すま　氏
（撮影地：五日市）

58「音色で応援」
染矢　すま　氏
（撮影地：五日市）

59「偶然の出来事」
依田　有功　氏
（撮影地：広徳寺）

64「松上の鷺」
大河原　光雄　氏
（撮影地：あきる野市五日市）

65「A」
大河原　光雄　氏
（撮影地：あきる野市五日市）

66「背中」
大河原　光雄　氏
（撮影地：日の出山）

67「ペース・メーカー」
井上　武信　氏
（撮影地：東京都立秋留台陸上競技場）

68「燃える朝もや」
吉野　敬子　氏
（撮影地：あきる野市草花）

71「鳳凰の舞（ユネスコ無形文化遺産）」
山﨑　惇夫　氏
（撮影地：日の出町平井春日神社）

72「秋川で花火大会」
山﨑　惇夫　氏
（撮影地：あきる野市秋川）

75「節分祭の行列」
柳川　卓哉　氏
（撮影地：あきる野市大悲願寺）

76「喝采」
柳川　卓哉　氏
（撮影地：あきる野市広徳寺）

77「三者三様の楽しみ方」
柳川　信子　氏
（撮影地：あきる野市）

78「賽の神　天へ」
村野　圭一　氏
（撮影地：二宮神社）

80「晩秋の静寂」
村野　圭一　氏
（撮影地：大澄山山頂）

81「村祭り」
内山　義之　氏
（撮影地：小宮神社）

83「神の木　荘厳」
中村　浩士　氏
（撮影地：広徳寺）

84「初雪」
中村　浩士　氏
（撮影地：横沢入地区）

85「爛漫」
河村　貞和　氏
（撮影地：あきる野市雨間西光寺）

86「天と地の競演」
角南　英夫　氏
（撮影地：あきる野市引田）

87「晴舞台」
角南　英夫　氏
（撮影地：あきる野市雨間）

89「冬日」
小林　徹　氏
（撮影地：あきる野市）

91「静かな流れ」
野口　慶子　氏
（撮影地：秋川）

92「刈り入れ終わる」
野口　慶子　氏
（撮影地：横沢入り）

93「喜三番叟」
阿部　允之　氏
（撮影地：二宮神社節分祭）

94「出番を待つ」
阿部　允之　氏
（撮影地：二宮神社節分祭）

95「春爛漫」
阿部　允之　氏
（撮影地：あきる野市乙津花の里　龍珠院）

96「今年もガンバロウ」
大須賀　ユキコ　氏
（撮影地：あきる野）

98「足元の春」
北田　昇司　氏
（撮影地：あきる野市公民館前歩道）

101「アーチの先を眺める」
植　敏子　氏
（撮影地：秋留台公園）

102「一日の終演」
植　敏子　氏
（撮影地：東秋留橋から）

107「神泉の守」
鷹松　徹　氏
（撮影地：二宮神社）

108「文化の発信基地」
鷹松　徹　氏
（撮影地：秋川キララホール前広場）

110「ひと休み」
嶋﨑　基　氏
（撮影地：一の谷小学校付近）

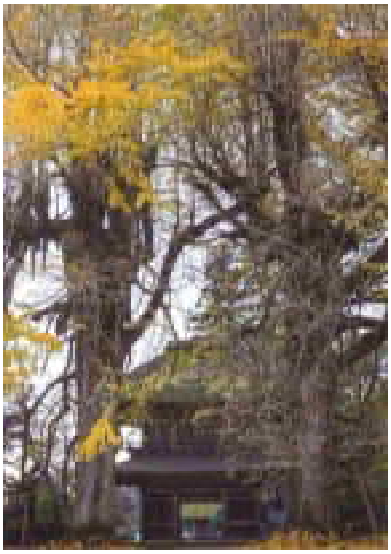
111「清流に舞う」
嶋﨑　基　氏
（撮影地：新秋川橋橋上）

14「雨天決行」
宮田　裕介　氏
（撮影地：秋川橋河川公園）

18「5年目の夏（コンニャクの実）」
田之倉　全　氏
（撮影地：檜原村）

24「夜空の向こう」
清水　重郎　氏
（撮影地：雨間秋留公園）

26「彼岸すぎたよ　水冷たいよ」
浦野　登代子　氏
（撮影地：青木平橋の下で）



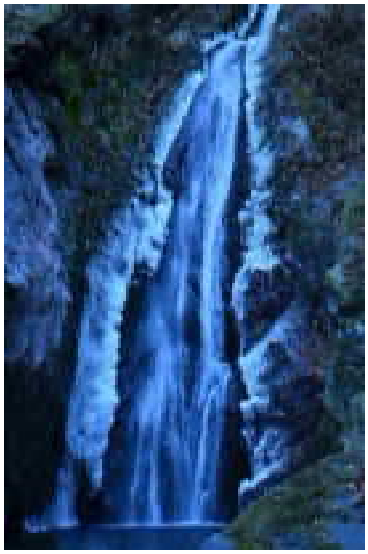
29「大イチョウがそびえ立つ山門」
NGUYEN　NGOC ANH　氏
（撮影地：あきる野市広徳寺）

33「氷の神殿」
山田　裕士　氏
（撮影地：檜原村払沢の滝）

39「厳冬の九頭龍の滝」
沢井　康正　氏
（撮影地：檜原村数馬）

45「広徳寺に誘われて」
上杉　秀子　氏
（撮影地：あきる野市）

46「あさ焼け」
上杉　秀子　氏
（撮影地：秋留台公園）



48「厳冬の大岳沢大滝」
鈴木　保信　氏
（撮影地：あきる野市養沢川上流大岳沢）

51「厳冬」
石原　潤　氏
（撮影地：檜原）

61「翻弄」
萩原　綾乃　氏
（撮影地：秋川国際マス釣り場）

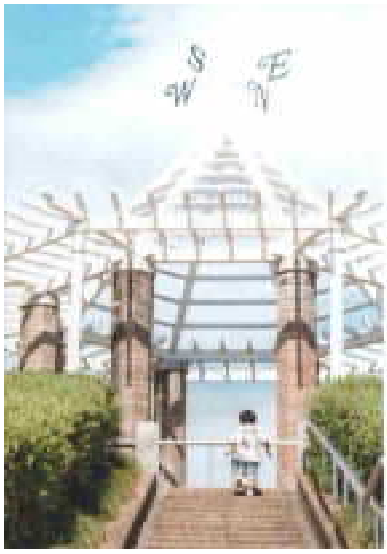
62「花道」
荒井　宏之　氏
（撮影地：あきる野市）

70「秋のぬくもり」
渡邉　秀治　氏
（撮影地：あきる野市広徳寺）

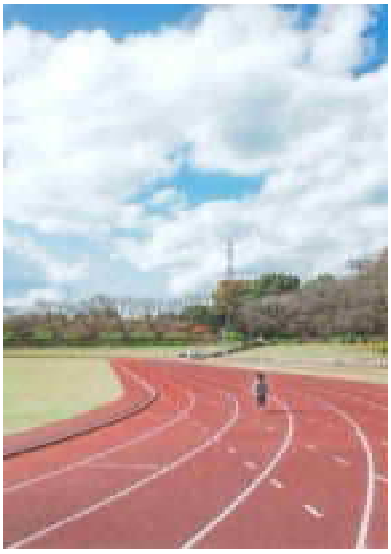
79「春爛漫」
村野　圭一　氏
（撮影地：二宮東地区多摩川土手）

100「冬の払沢の滝」
北田　昇司　氏
（撮影地：檜原村）

103「青い空いわし雲」
植　敏子　氏
（撮影地：秋留台公園）



104「てっぺんまで」
荒川　美幸　氏
（撮影地：秋留台公園）



105 「青空とトラック」
荒川　美幸　氏
（撮影地：秋留台公園）

109 「秋留大地の日の出」
嶋﨑　基　氏
（撮影地：武蔵引田駅付近）

中学生以下の部

1 「影絵」
田辺　諒士　さん
（撮影地：秋留台公園）

2 「栄える花」
高橋　尚維　さん
（撮影地：秋多中学校　校内）

4 「絵みたいにかいた空」
京久保　友菜　さん
（撮影地：牛沼）

5 「鏡の中は…」
阿部　那南子　さん
（撮影地：自宅）

6「隙間から光」
岸　恭輔　さん
（撮影地：秋留台公園）

7「孤独なダンゴムシ」
木村　優我　さん
（撮影地：秋留台公園）

8「吾輩は橋である」
三浦　充裕　さん
（撮影地：石舟橋）

10「今日の終わり」
ハッカーソンアイナー奏人　さん
（撮影地：自宅前）

11「思い出」
小林　紅音　さん
（撮影地：秋多中学校）

12「思い出の空」
山本　実優　さん
（撮影地：自宅のベランダ）

14「青と緑の世界」
二見　優菜　さん
（撮影地：秋留台公園）

17「沈む夕日」
石川　ここな　さん
（撮影地：家のベランダから）

18「展望広場」
北島　凛　さん
（撮影地：秋留台公園）

20「透き通る自然の鏡」
上野　哲虎　さん
（撮影地：あきる野市二宮お池公園）

21「日出る処の天使」
中村　宗太郎　さん
（撮影地：秋留台公園）

22「白と緑」
前川　柚結　さん
（撮影地：公園）

23「宝の在り処」
野口　優翔　さん
（撮影地：秋多中学校）

24「未来永劫守り続ける」
石井　梨央　さん
（撮影地：横沢入里山）

25「木々の間より漏れ出る陽光」
佐々木　健人　さん
（撮影地：あきる野市）

26「夕日に染まる木々」
山﨑　久徳　さん
（撮影地：秋留台公園）

27「緑」
降矢　莉愛夏　さん
（撮影地：秋川渓谷）

28「林にぽつり」
上国料　隆惺　さん
（撮影地：秋多中学校）

29「思い出の教室」
大住　萌衣　さん
（撮影地：秋多中学校）

30「あっ光が氷に」
三浦　潤記　さん
（撮影地：檜原村　忠助淵）

31「ジブリみたいな壁」
小山　空色　さん
（撮影地：秋留台公園）

34「一輪の花」
矢嶌　脩人　さん
（撮影地：大塚公園の近く）

36「年明け準備」
成田　一輝　さん
（撮影地：自宅）

37「白いダム」
川﨑　壮納　さん
（撮影地：奥多摩湖）

38「近未来」
横丁　稜久　さん
（撮影地：秋留台公園）

40「ひと休み」
柳川　未依奈　さん
（撮影地：あきる野市）

15「赤いバラ」
髙野　美空　さん
（撮影地：秋留台公園）

19「凍った滝」
宮内　麻衣　さん
（撮影地：檜原村）

35「いつも通る我が家の道」
岡田　優愛　さん
（撮影地：自宅付近）

第 8 回あきる野フォトコンテスト作品審査員講評

一 般 の 部

1「天狗の診察」
お祭りのワンシーンで被写体に迫って撮影することができ、しかも面白い瞬間を捉えていると思うのですが、後ろの人まで考えて構図を作ってしまったのがもったいないところです。手前の寝転がっている主役とその周りだけで構図をまとめた方が良かったと感じました。

2「厳冬」
見事な氷瀑ですね。人を入れることによって滝の大きさやスケール感などはよく伝わるのですが、光がやや単調でメリハリがないです。また配置した人物の服装の色が後ろの壁と被ってしまったのも残念な部分ではあります。

3「晩秋の日溜」
いい光の中で富士山も見えたり、良い場所なのは写真からしっかり伝わってくるのですが、人物を入れたり文字を入れたりと写真の中に情報量が多過ぎて、どこを見せたいのかがわかりにくくなってしまいました。なるべくシンプルに伝えたいものだけでまとめる、ということを考えてみると良いでしょう。

5「曼珠沙華」
これは上手に撮られている作品だと思います。赤と黒の対比も綺麗ですし、難しいピントもしっかり合っています。また前ボケを活かしたりして写真としてのうまさはものすごくあるんですけど、あきる野らしさという部分があまり感じられなく、コンテストとしてのテーマ性に対して少し損しちゃったかな、と思いました。

6「瀬音みち」
いい光の中で桜もくっきり見えていて、しかも背景が暗いのでピンクの桜が立体的に見えてきます。構図のまとまりも良かったですね。やや手前の道の部分が多すぎたかもしれません。

7「おし鳥捕食」
よく見るとおし鳥がカエルのようなものを捕まえた決定的瞬間を見事にとらえているのですが、データの解像度が足りてなくて、写真画質があまりよく見えなかったのがもったいないです。

8「コスモスの花咲く頃」
手前の花だったり奥の造りかけのビルだったりと、画面の中にいろいろなものがありすぎな印象です。この写真で言うなら、手前の花をもっと主役のように切り取って際立たせた方が良いでしょう。

9「森を駈ける少女」
口を開けた表情もかわいいし、コスチュームを着た動きもいいです。衣装が似合う森との組み合わせでシチュエーションとしては最高ですが、もう少しピントをシャープにしたかったです。動きを追うカメラの設定をもう一度確認してみましょう。

11「春爛漫」
カラフルな色彩があってとてもいいんですけれど、プリントの調子がいまいちで、色がべたっとして見えているのが写真としてはもったいないかなと思います。

12「秋の彩り」
紅葉と逆光の太陽を上手に入れて、色のグラデーションも飛び込んでくるいい写真ですが、画面の真ん中あたりの空間に無駄が多いかなと思います。もう少し別のフレーミングを考えてみても良かったでしょう。

13「春の踊り」
二人の人を主役に構図をまとめているのですが、一番目立つ右の人の動きが角度的に見えなくて、背中だけになってしまったのがもったいないですね。

14「雨天決行」
美しいプリントだと思います。特に画面上部に行けば行くほど雲があるのか、霞んで見えなくなっていくところがすごくいい部分です。ただ、画面下の川の部分が多すぎかもしれません。川を敢えて入れない画面構成の方がまとまったと思います。

16「我慢比べ」
しっかり考えられた画面構成ができている写真だと思います。ただ、ちょっと露出が明るすぎかも。炎が白飛びしている部分が多く、また画面全体に重みが無いのが残念。もう少しアンダーに撮った方がしっかり絵がまとまると思います。

17「落城」
だるまが燃やされている部分が細かいところまで見えていて臨場感がある写真だと思います。右側の黒い空間はもう少し少なくしても良かったかなと思います。

18「5 年目の夏（コンニャクの実）」
これはこんにゃくの実なのですか？面白いですねえー。僕は何なのかまるでわからなかったのですが、植物の不思議な形とかの面白味は伝わってくる写真です。カメラの絞りを工夫して、主役を浮かび上がらせたり奥行きを出したりしたら、もっと良くなるでしょう。

20「朝のハーモニー」
空のグラデーションがとても綺麗でいいシーンを撮っているんですけど、手前の花や奥の太陽など、組み合わせるバランスがイマイチで、構図としてもまとまりがなく見えてしまいました。

21「鳳凰の舞」
祭り写真として動きがある一瞬を追えてはいるのですが、右側の白っぽい部分は要らなかったと思います。画面真ん中の動きの中心に向かってズームするなど、そこを大きく撮った方が良かったと思います。

22「古民家の十五夜かざり」
作者がこの写真から何を言おうとしているのかが伝わりにくい写真です。例えばこの形を見せたいのか、色を見せたいのか、また雰囲気を出したいのか、何か美しさを発見したのかなど、そういう部分がもう少しあると良かったです。

23「いやしのヒマワリ」
いろいろ工夫をされている写真だなと思いました。絞りをうまく使って主役の中央のひまわりをちゃんと上手に、際立たせたいという、作者の表現意図はとてもよく分かりますし、中央のひまわりと左側のひまわりで構図のバランスを取っているところも伝わってくるんですが、右側の空間処理にもう少し工夫が欲しかったです。

24「夜空の向こう」
これは月食の写真ですが、時事性がある瞬間をすごく個性がある切り取り方で狙っているのが、良かった部分だと思います。ただ小さな月と夜という条件の中で、これを作品性が高いところまで持っていくのはとても難しいと思うんです。作者の努力はちゃんと伝わってくるけれども、もう一段作品性を高める努力が求められるシーンかと思います。

26「彼岸すぎたよ　水冷たいよ」
川とそこに遊びに行った犬との組み合わせはいいのですが、被写体までが遠すぎます。もっと犬に近寄って撮って欲しいかなと思いました。

27「馬頭さま参り」
この作品はピントとブレの二つで足りてない部分があるので、まずはそこから練習してみましょう。猫と出会い頭で慌てていたかもしれませんが、技術はとても大事なことです。

28「無住寺の新年」
画面に無駄な空間が多すぎる印象です。例えばお地蔵さんにもう少し寄ってみたりしたらどうでしょう。そうすることでお地蔵さんの細かいディテールや石の質感などが伝わったりしますよね。何を伝えたいか、それを強く出すことを意識してみましょう。

29「大イチョウがそびえ立つ山門」
二本の木と広徳寺の山門で画面をまとめようとした狙いは良かったと思います。ただ山門のバランスがイマイチで、もう一工夫したかったですね。

30「秋の広徳寺」
カメラを地面すれすれにおいていて、臨場感のあるとらえ方ができています。惜しいのは曇りの日なので空が白くなってしまうところです。白い空が多いとどうしてもそちらが目立ってしまいます。また右上の幹は不要だったので外したかったところですね。

31「山抱きの大樫」
　特徴的な形をした木を下からあおって、広角レンズの力を使って四方に伸びる感じを描くことができました。左の木のまっすぐなラインが別の方向性で流れを変えてしまったのが惜しいところ。全体のリズム感を意識できるポジションを吟味できるとさらに完成度は高まるでしょう。

32「山の神様」
　山の中に小さな社があって、それを囲って大切にしている素敵な光景に出合いました。斜めからの光がすごくいいので、新緑の葉っぱが輝き、社も神々しく感じられます。この光線がなかったら平凡な写真に終わったことと思います。左奥に山を配置していることで奥行き感もあった方がいいですね。

33「氷の神殿」
　タイトルがいいですね。イメージが広がる言葉を添えることができています。周囲の茶色い部分の面積がやや多い感じがしますので、上部よりも下部をもう少し入れ、全体的に滝に迫って白の世界でフレーミングしてもよかったでしょう。

34「冬の果実」
　果物が実っているところを青空とともにとらえています。ただ、画面を対角線で区切ると、果実のある木と、青い空と二分されていて、どちらを撮りたいのかが伝わりにくい感じもします。画面右に別の木が入り込んでいるのも惜しいです。画面の隅までしっかりチェックしましょう。

36「深山の春」
　文化財になりそうな古民家の屋根を添景にして、春の雰囲気をとらえることができました。惜しいのは手前の花木です。下部の幹まで入れてしまったことで黒い幹が目立ってしまい、その下の空間は特に意味がないので、ポイントになるはずの古民家の存在感が弱くなってしまいました。撮りたいところ、きれいな部分だけでまとめられたらよかったです。

37「平井大祭」
　本来はキツネのお面を主役にしたいところですが、ピントが真ん中の竹の部分に合っているようです。やはりピントが合った位置を主役として見るので、動きのある被写体で難しいところもあるでしょうが、きちんと合わせるようにしたいところです。

38「養沢の守り神」
　小さな存在ですが、カエルを主役にしたのだと思います。それが伝わってくるのは白流れの部分を背景にして配置したからです。これが黒い岩やコケだったらここまでの存在感は出せません。ただし、水の流れが白飛び気味なのが惜しまれます。

39「厳冬の九頭龍の滝」
　滝の写真が多く寄せられましたが、この作品は画面構成に全く無駄がありません、氷の付いたところ、流れ落ちる水など上質な雰囲気でまとめられています。シャッタースピードがほどよく、流れる音が聞こえてくるようです。

41「秋川に住む鳥達」
　朝の情景でしょうか。赤みを帯びた川の色が鳥の白さを引き立てる役割を果たしています。周囲に無駄な空間もなくフレーミングできているので、鳥に目が向きやすくなっています。あとは飛び立つところなど運任せもありますが、辛抱強く待って、最高の瞬間を狙いたいですね。

42「春を待つ秋川」
　地元の人が歩きながら見つけた風景なんだと思います。逆光により輝きを放ってるところをとらえられています。背景がもうちょっと整理できたらよかったところです。手前の主役の形がそれほど魅力的ではないので、背景を絡めてこの地域らしさを描けると魅力がアップしてきます。

43「見事に秋色」
　一本の真っ赤になった木を主役に、その向こうに太陽を絡めて非常にインパクトのある作品になっています。影も印象的でいいアクセントになっています。横位置にして木の上部まで入れなかったというのも、この木の大きさを伝えるという意味では面白い捉え方でした。

44「仏たちの春」
　仏様が何体もあるのですが、春の花に囲まれて、いい日差しを浴びて気持ちよさそうです。仏様の露出はいいのですが、全体的にはややオーバー気味になっていて桜の色も薄まってしまったのが残念です。

45「広徳寺に誘われて」
　自転車でこの辺をツーリングしているとやはり立ち寄りたくなるのが広徳寺なんでしょう。大きな木を見上げている表情が想像できる写真ですね。ただ、右の幹の入れ方や左の屋根の入れ方に課題があります。細部までこだわることで完成度が上がってくるので画面四隅にも気を配りましょう。

46「あさ焼け」
　野球場のネットでしょうか、真っ赤に焼ける空を背景にシルエットとして入れて、日常の光景をドラマチックに描けることを伝えています。上部の木の入れ方が多すぎてややバランスが悪いようです。木は半分くらいにするともう少し朝焼けの情景に目が向きやすくなるでしょう。

48「厳冬の大岳沢大滝」
　冬の滝は氷が付いてくるとより魅力的になりますが、ホワイトバランスを太陽光にしたのか、全体に青い色調となり冬の冷たさを表現できています。遅めのシャッター速度にして糸が垂れているような表現になり、繊細な作品です。縦位置にして無駄のない画面構成で撮ることができています。

49「無病息災を願って」
　どんど焼きの光景ですが、奥に橋が入ってるのがこの地域らしさを表していると思います。横位置にしてふたつの燃やしているところを入れたことで奥行感が出ていたり、人物も適度に配置されていて、正月の行事を地域で守っている感じが伝わってくるいい写真です。

50「春の花競演」
　大きい屋根が特徴的で、そこに菜の花から桜まで色とりどりの花を重ねて春の雰囲気を盛り上げています。曇りの日なので華やかさが足りないのが惜しいですね。別の日に撮りに行って、春爛漫の様子を描けたらもっとよくなるでしょう。

51「厳冬」
　長く伸びる氷柱を前景に、奥に雪があり、渓流があるという奥行感のある表現になっています。ただ、どこを主役として見ていいのかわかりにくいところが残念です。硬い氷柱とやわらかい水の流れ、といったような対比で見せることができればまた印象も違ったでしょう。

53「沢戸橋」
　橋の特徴である丸みを活かして撮っているのと、背景の空と同様の青い橋を重ねて色彩的にも目を引きます。できれば橋を渡る人がいるタイミングなど、もうひとつの要素が加わると人々の生活にとって大切な橋であるという内容に繋がり、情景だけをとらえた写真より中身の濃いものになったでしょう。

54「残雪に鎮座す」
　カメラを地面スレスレに置いたことでその場にいるような臨場感が伝わってきます。「残雪に鎮座す」というタイトルなので、雪の降った部分を多くしていますが、神社自体が右より過ぎて、鎮座という印象が弱い感じがします。どう撮りたいのかを明確にして、カメラを向けると改善されるでしょう。

56「シンボルとして」
　今回あまりモノクロの作品がなかった中で、すごく個性的な写真だと思いました。写真からはセンスの良さも感じるし、独特な画像調整も目を惹きました。ただちょっと調整の具合が強すぎるかなという感じもしています。

57「うれしいネ！」
　前ボケを入れたのと親子との組み合わせはすごく良かったなと思いますが、特に上部分に対して空間の無駄な部分が多いと思います。もう少しこの親子にフォーカスするなど、上手なフレーミングができると良いでしょう。

58「音色で応援」
　これは難しい撮影シーンだと思います。流し撮りで人の動きに合わせてカメラを振っているから、臨場感はあるし面白い表現だと思うんですが、虚無僧と手前のガードレールが重ならない瞬間を狙いたかったですね。

59「偶然の出来事」
　スプリンクラーによる放水のようで、面白い瞬間ですね。水と光の組み合わせはとても綺麗に撮れているのですが、画面の周囲に余分なものが多すぎるので、要らない部分をカットしてみましょう。いいシーンだけにもったいなかったです。

61「翻弄」
　見事に釣り上げた魚を家族総出で捕まえようとしている決定的瞬間が写っているんですが、フレーミングが中途半端になってしまい、魚にあまり目がいかない結果となってしまったのが残念です。

62「花道」
この作品はいい切り取り方をしていると思います。月を上手に桜の枝が空いた空間に配置しているし、一番下の車のライトも効果的にワンポイントになっています。青と赤の色の対比も効果的に使っています。ただ、ちょっと見るべきものが画面の中に多過ぎて、欲張りすぎたかなと思ったりもしました。

64「松上の鷺」
鷺と月の組み合わせがとても素敵ですね。これは合成じゃないですよね？こんな条件の光で撮れるのか、もしくは合成しているのかわかりませんが、印象的な写真に仕上がっています。望遠レンズを使っているからか、写真にやや解像力が足りなくてシャープでないのが残念でした。

65「A」
これは狙いとして面白いですよね。なんでマンホールなんだろうとか思ってよく見ると、これはあきる野のマンホールだ！今回のコンテストのテーマを考えた時にはちゃんと分かる面白い内容にはなっているのですが、このマンホールよりも周りの緑とかが強すぎて、あまりマンホールの文字まで目がいかないんですよね。それがもう少しわかるような見せ方、主役の際立たせ方ができたら良かったでしょう。

66「背中」
山に登るとこれほど汗をかくほど、日の出山の自然は濃い、そんな作者の視点が感じられるとてもユニークな作品です。ただ、画面左の柱は重たく邪魔に見えてしまいますし、右側の空間にはもう少しなにかあったら良かったでしょう。背景までしっかりこだわってみてほしかったです。

67「ペース・メーカー」
これは秋留台公園のトラックのようです。流し撮りとしてはすごく上手くまとめられているし、いい切り取り方ができています。ただ、コンテストのテーマを考えると、こういうスポーツだけを主役にした写真というのは損をしちゃいますね。

68「燃える朝もや」
いい光で撮られている作品だと思います。太陽の高さが低い時間帯というのは絵にした時にドラマチックになりやすいですね。同じスタイルの一戸建ての家がたくさん並んでいるこのような郊外の雰囲気も、味があっていいものですね。

70「秋のぬくもり」
立派な銀杏の木を背景にスケッチをしている人や楽しんでいる人のスナップ写真ですが、構図に対して主役である右側の人物の位置があまりよくありません。人物の右側にもう少しスペースを作るか、被写体にもう少し近寄ったりするとよかったかと思います。また画面の水平がやや右下がりにも見えますね。

71「鳳凰の舞（ユネスコ無形文化遺産）」
動きがしっかり捉えられているのとお祭りの臨場感も写っていて、かなり上手に切り取られてる写真だと思いました。ただ、広角気味なレンズを使った表現の場合には、絞りをもう少し開け気味にして主役と背景とのメリハリをつけた方がいいと思います。この写真だと背景までピントが合いすぎているから、全体的にごちゃっと見えているかと思います。

72「秋川で花火大会」
花火と観覧車とその他の夜の街の光、この３つの被写体の光がそれぞれ違う明るさなので、撮影的にはとても難しいシーンですね。明るいものが画面内にいくつかあると空間的に煩雑に見えてしまいます。花火なので難しいかもしれませんが空がもう少し明るい時間帯に撮るか、いっそのこと構図を変えて花火がより主役に見えるようなフレーミングにするのも一つの方法です。

75「節分祭の行列」
これは何の隙間から覗いているのでしょうか？ちょっと個性を感じる写真で、審査の時に気になりました。ただ、その先が想像しにくく、もう少しこの覗いた隙間がある場所の情報が、写真から感じられると良かったかもしれません。工夫はとても良いと思うので、なぜここから覗いたのか、この場所がどういう場所なのか、を絵柄の中に入れてみることを考えてみてください。

76「喝采」
良い光を捉えています。構図も大胆さがあり、上手にまとめられています。露出がちょっと明るいので、もう少しアンダー気味に振っても良かったんじゃないかと思いました。

77「三者三様の楽しみ方」
この作品は、三人の人を主役にしているようですが、左の人が中途半端に切れてしまっています。しっかり周辺まで見て構図をまとめてみましょう。

78「賽の神　天へ」
　炎を扱っていてすごく力強い写真なんですが、手前の人物にストロボの光を使っているので、衣装などのディテールが見え過ぎてしまっています。ここはストロボをもう少し弱く炊くか、もしくは使わないでその場の光だけで撮った方が良かったかと思います。

79「春爛漫」
　この作品は結構いい写真です。画面の上にある桜の花に光がスポットで当たっているところは、ものすごくドラマチックです。桜と人物の組み合わせで空間を作っていますが、画面が広すぎて真ん中の空間が間延びしているのがもったいなかったかなと思いました。

80「晩秋の静寂」
　カメラの設定だと思うのですが、解像度が足りていなくてシャープに見えていません。すごく画像が粗く見えているので、今一度カメラの画質の設定を確認してみてください。そして何を撮りたいかの部分。これは奥へと続く道が主役だと思うのですが、そこを中心に構図をまとめてみましょう。右側の看板などは必要ないと思います。

81「村祭り」
　ストロボを使って雨を写し止めた写真で狙いは面白いのですが、光が強すぎるのでやや不自然に見えてしまっています。ストロボの使い方をもう一工夫するといいと思います。

83「神の木　荘厳」
　紅葉と広徳寺をからめた作品です。山門を中心として周りをオレンジ色でまとめた構図も良いのですが、光にメリハリがないのでやや印象が弱く見えてしまいます。光を変えてみることで写真の印象はがらりと変わるので、何度も足を運ぶなどして、よりいい瞬間にトライしてほしいと思いました。

84「初雪」
　雪が深々と降っている里山の風景が写っていますが、構図にまとまりが感じられません。一番面白いのは右側の地面が少しずつ白くなっている部分だと思うので、そこを中心に構図をまとめ、左側の草の部分はバッサリと切ってしまうのも良いと思います。

85「爛漫」
　見頃な桜と青空の組み合わせは綺麗なのですが、順光の光はややメリハリがなく見えてしまいます。青空を出したいためにこの光の角度で撮りたい、というのはよくわかるのですが。もう少し光に対して角度を変えたり時間を変えてみて、主役をはっきりさせることでメリハリをつけてもよかったでしょう。

86「天と地の競演」
　花火が水を張った田んぼの水面に映っている、よく考えられた写真です。写り込みの花火の明るさは適正ですが、本物の花火はやや露出オーバーに見えてしまいます。本物の花火は敢えて構図からカットして、映り込み部分を中心にしてまとめてみてもよかったのではないでしょうか。

87「晴舞台」
　構図としては上手にまとめられてるし、主役の鳥のバランスもよく、またくちばしに動きがあるのもいいシャッターチャンスです。ものすごくピントもシャープで適切に撮れているのですが、やっぱりコンテストのテーマ、もう少しこの土地が見せる表情が見えてくるとさらに良かったと思います。

89「冬日」
　冬の寒い感じを舞っている雪とともに表現しています。露出が的確なので、寒さを強調しているかのようです。これ以上明るいと冬の雰囲気が出てきません。またシャッター速度もよいので、雪が舞っている印象がよく伝わってきます。できればなにかもうワンポイント加えたいところでした。

91「静かな流れ」
　有名な場所ではないと思いますが、光と影を使って作品にしようという姿勢がすごくいいですね。惜しいのは画面右の光があたった白部分。ここが印象的な青い流れよりも目立ってしまいました。トリミングして画面を整えるとグッとよくなってきます。

92「刈り入れ終わる」
　刈り入れが終わった田んぼに夕日が当たってるのでしょうか。オレンジ色で統一された画面は実にきれいで目を引きました。ただ、どこを主役にしてこの写真を見たらいいのかがわかりにくいのが残念です。畔のカーブなど魅力的な部分を画面のポイントにすることでより引き付けられる写真になります。

93「喜三番叟」
　演目の最中ですが、画面下の赤い幕を多く入れすぎましたね。主役の二人に目が向くように赤い幕は 2/3 くらいはカットしたいところ。あとはこの二人の動きにあまり魅力がないのは残念です。地域の行事を撮ることはすごくいいので、タイミングを意識して撮ると写真の内容も深まってきます。

94「出番を待つ」
　みんな出番を待っているのか不安そうな顔というのか、楽しみという顔なのか、それぞれに違った感情を持っているのが伝わってきます。ストレートなタイトルですが、想像を膨らませることができます。だれか一人、動きのある瞬間を撮ることができたらもっと魅力度が増しました。

95「春爛漫」
　あきる野市の有名スポットでしょうが、電柱や柵など、不要なものがたくさん写ってしまい、花のきれいさを損なっています。望遠レンズの焦点距離が足りないなどの理由があるかと思いますが、トリミングで対応するなど、きれいな部分が画面をまとめたいところです。

96「今年もガンバロウ」
　惜しいのは露出がちょっとアンダー気味で春の華やかな雰囲気が出ていないところです。春の空気感を出すようにプラス側の補正か、プリントの際にレタッチするなどしてイメージ通りに仕上げたいところです。手前のサッカー選手も特に目立つプレーでないのがもったいないです。動きを見極めるともっとよくなります。

98「足元の春」
　桜が散った後に水たまりを組み合わせて映り込みの世界を表現しています。画面全体に桜の花びらが散ってるのがいいですね。ただ、映り込みでもっとも目立つのが幹というのが惜しいです。微妙にカメラの高さを調整してみるとよかったでしょう。

100「冬の払沢の滝」
　凍っている払沢の滝ですが、縦位置でとらえて、落ちるところから凍っているところまで入れ込んだことで、凍結した滝のスケールが伝わってきます。シャッタースピードも的確なので硬い氷と柔らかい水の流れという対比がいいと思います。下部のハイライト部分が少し飛び気味になっているのが惜しまれます。

101「アーチの先を眺める」
　アーチの丸さを大胆に切り取って、奥にある幹を上手く重ねています。アイデアが非常にいいですね。画面に左下のところにレンガからコンクリートに変わっているところが写っていますが、レンガだけで切り取りたかったところ。細部まで統一感を出せたら印象度が高くなりました。

102「一日の終演」
　こういう地元の何気ない風景に目を向けるのはすごくいいことだと思います。建物の反射がポイントになっていて面白いのですが、太陽の周りが白く飛びすぎているのが残念です。ハーフ ND フィルターを装着するなど、ひと工夫をすることで解消されます。川の雰囲気もいいのでぜひ再チャレンジを。

103「青い空いわし雲」
　タイトルの通り、雲を主役にした画面構成というのが一目でわかります。右側に紅葉の木が上まで入っていますが、これが V 字の区間を作っていて、斬新な構図となっています。さわやかな空気感はいいのですが、あとひとつ要素が加わることで、物語が広がり、写真の内容が深まったところです。

104「てっぺんまで」
　秋留台公園の一番高いとこなんですかね、子どもさんが一歩ずつ確認しながら登っていく感じがよく伝わってきます。左足が上がってる瞬間のカットを選べていることで動きが出ました。一枚で決めたのか、たくさん撮った中から選んだのかわかりませんがお見事です。

105「青空とトラック」
　子どもさんが陸上のトラックを歩いているところですが、縦位置でさわやかな空と一緒に捉えているのが面白いです。広い画面に小さな主役というのは、存在感が出にくいのですが、トラックの茶色の部分に重ねたのでしっかりと引き立っています。子どもさんに動きがもう少しあればよかったところです。

107「神泉の守」
　スローシャッターで撮ったアイデアが非常にいいですね。ただし、何を伝えたいのかがわかりにくい感じはします。だとすると逆にカメラを鯉の動きに合わせて流し撮りにしてもよかったでしょう。視覚的なインパクトの写真になったと思います。

108「文化の発信基地」
　広角気味のレンズで下からあおって撮っているので、存在感が非常に強く、目を引いた写真です。惜しいのはこの人物とのコミュニケーションがどこまでできていたか、というところです。緊張気味に見えますが、もう少し表情があったならばイキイキとした写真になったことでしょう。

109「秋留大地の日の出」
　苗を植えているのか、作物を作っているのかビニールハウスの部分を潰さずに入れてることでこのエリアの雰囲気がうまく出てます。空と地上部の割合が半々になっているので、太陽の存在感もちょっと弱まっているような気がします。空の部分を少し減らすと力強さが出てきたでしょう。

110「ひと休み」
　田んぼの中に鴨がソーシャルディスタンスを守っているかのように間を空けて休んでいるのがユニークですね。後ろの民家の扱い方が難しいところですが、家が水面に映り込んでいるので、思い切って実像の家はカットしてもよかったかもしれません。

111「清流に舞う」
　橋の上から撮ったという俯瞰の視点がすごくいいですね。露出がオーバーなので鳥の質感がなくなってしまったのが惜しまれます。水面に紅葉なのか、建物の色なのかオレンジ色が映り込んでいることで色彩的な変化もあってきれいな一枚です。

中 学 生 以 下 の 部

1「影絵」
　雲一つない快晴の青空と木のシルエットの組み合わせでシンプルにまとめられた作品です。タイトルのように影絵のようにも見えますが、もっと暗く撮影すると、さらに影絵らしく見えると思いますよ。

2「栄える花」
　アップでたんぽぽにうまくピントを合わせて撮影できています。ボケも大きく綺麗ですが、さらにもう一歩、近づいてみてもいいと思います。

4「絵みたいにかいた空」
　空をとても大きく入れた構図に作者の個性が感じられて良い写真です。雲がもう少し上の部分まで来ているとさらに良かったですね。

5「鏡の中は…」
　やや青っぽく見える不思議な色の写真で、とても雰囲気があります。いい色彩感覚だと思いました。

6「隙間から光」
　隙間から覗く太陽を発見して撮影した作品。暗めに撮影したことで、光がより際立ってかっこいい写真になりました。真ん中に太陽を置かずにずらした構図も良かったと思います。

7「孤独なダンゴムシ」
　よく見るとダンゴムシですね、カメラの限界があるかもしれませんが、ダンゴムシにもう少し近寄りたいです。自分が使っているレンズの一番近寄れる最短撮影距離っていう部分を調べてみましょう。

8「吾輩は橋である」
　この作品は光がいい時間帯に撮影ができており、また橋の入れ方も上手にフレーミングができています。人物が入る位置にもう一工夫できると、さらに良かったですね。

10「今日の終わり」
　素敵な夕焼けですね。雲に広がりも感じられて良かったのですが、手前の物干しの部分、その入り方がちょっと中途半端に見えてしまいました。雲と木のシルエットの二つだけで画面をまとめた方が良かったと思います。

11「思い出」
窓に映り込む太陽の光がとても綺麗ですね。手前の下側の部分や、右側の雨樋の部分の線が強いので、もう少しその部分をカットしてみましょう。そうすることで、すんなり窓に映り込む太陽の部分にさらに目が行くようになると思います。

12「思い出の空」
自宅のベランダだそうです。どんな思い出があったのでしょうか？枝の先だけ入れた構図は大胆で面白いなと感じました。ただ、その枝先がブレてしまってシャープに見えていないのが惜しいです。

14「青と緑の世界」
二色の違いに注目した視点がユニークでいいですね。線がリズミカルに散りばめられていて、そこを中心に構図をまとめようとした狙いはいいですが、上の方の線の入り方が斜めで中途半端に見えてしまいました。

15「赤いバラ」
斜めにした構図が作者の個性ですね。面白いです。大人になると画面は水平垂直を出さないと怒られますが、中学生の皆さんはどんどんカメラを動かしながら撮ってみて、いろいろなチャレンジをしてみてください。

17「沈む夕日」
太陽が沈むギリギリ、というのは思わず写真を撮りたくなってしまいますよね。キラッと輝く光もかっこいいです。上の部分に入ってしまった電線の入り方にもう少し注意してみましょう。また、もう少し暗く写しても良かったかもしれません。

18「展望広場」
展望広場のおしゃれな屋根に注目した写真です。その形を上手に捉えていると思います。青空や緑の草など、カラフルな色味も効果的に使って、作者の狙いがしっかり伝わってきます。

20「透き通る自然の鏡」
色の違う 3 匹の鯉が集まってきた良い瞬間ですね。写り込みの世界が水面と重なって、どことなく不思議な写真になりました。上の部分はもう少しカットしてもいいでしょう。鯉を中心に大きく撮ってみましょう。

21「日出る処の天使」
空の青や太陽の赤みの色が強く、すごく印象的な写真ですね。まるで影絵のようなインパクトもあっていい瞬間ですが、画像調整としてはその色の出方がやや強すぎると思います。もう少し自然な感じの色味にしても良いでしょう。

22「白と緑」
色に注目しながら花を撮った写真ですが、ピントがうまく合っていないのが残念です。まずは自分が撮りたい被写体にしっかりピントを合わせる練習をしてみましょう。

23「宝の在り処」
かっこいい夕日の写真ですね。よく見ると、太陽から広がる光もうっすらと感じられます。ただ、その光があまり目立たないです。写真全体を暗くすると、もう少し太陽からこぼれている光線が際立ってくるでしょう。

24「未来永劫守り続ける」
この作品は人物を入れたことが良かったと思います。人物を写真に入れることによって、写真には物語性が出てきます。さらに良くしようとするなら、どの位置に入れるといいか、というのを考えてみましょう。この写真の場合は、人物がもう少し中央寄りに来た時が、一番良いシャッターチャンスになるでしょう。

25「木々の間より漏れ出る陽光」
プリントを見ると空の部分のグラデーションの表現に、無理が出てしまっています。きっと画像調整が強すぎるのだと思います。もう少し自然な、見た目通りの階調や色味を意識してみてください。画像調節はやりすぎ厳禁です。

26「夕日に染まる木々」
太陽の位置が低いから、木の上部には光が届くのに、下部まで届かず、そのグラデーションがしっかりわかるいい瞬間ですね。真っ赤に染まった色も素敵です。手前のシルエットの木の配置の仕方にもう一工夫欲しかったです。

27「緑」
緑の色が強い、とても自然の元気さが伝わってくる写真です。いい光線状態だし、橋にも適度に人物がいて、思わず急いでシャッターを押したくなりますが、この写真はピントの位置が奥の橋にいかずに、手前の葉っぱに合ってしまっています。ピントを全自動にしておくとこのようになってしまうケースもあるので、しっかり自分の目で見ながら、ピント位置を確認する癖をつけましょう。

28「林にぽつり」
林の中から外にカメラを向けてます。露出は外の日が当たっている花に合っているので手前の木はシルエットになりかっこいい写真になっています。ただし、左の木の幹は不要でした。シルエットの木は 1 本にしておくと存在感も出て強さも加わったことでしょう。

29「思い出の教室」
教室の写真はあまり撮れないので、学生の特権です。窓からの光もよくて絶好の場面にカメラを向けることができました。ただ、机の上にあるのが水筒というのはあまりイメージが広がりませんね。ノートや鉛筆などのほうが学校らしいかなと思います。

30「あっ光が氷に」
水をまいて氷のオブジェを作ろうとしているのでしょうか、珍しい場所をとらえています。スローシャッターにしたアイデアはすごくいいのですが、周囲を説明的にあれこれ入れすぎたことで狙いの部分が弱い印象です。右上の木の幹も不要でした。ロープを超えない範囲で動いて最適なポジションを見つけたいですね。

31「ジブリみたいな壁」
「ジブリみたいな壁」といったように何かに見立てることができると、有名な場所でなくても写真を撮るところはたくさん出てきます。ブロックに落ちる影が単調になりがちが画面にメリハリが出ています。少しピントが甘いように見えます。

34「一輪の花」
一輪の花を堂々と撮っているのがいいと思いますし、何を撮りたいとかというのも伝わります。花は日陰にあるのですが、明るめの露出でとらえていることで花の色もしっかり出ていていいですね。ブレでしょうか画面がシャープでないのが惜しまれます。あわてず丁寧に撮りたいところです。

35「いつも通る我が家の道」
毎日見ている光景を写真にするというのは簡単なようですごく難しいものです。道の標識をポイントにして形の面白い木を入れたり、塀のところに咲く花を入れていつも見ているはずのものをあえて作品としてまとめることができました。次は時間帯を考慮できるとより魅力的な写真になってくるでしょう。

36「年明け準備」
年明け準備というタイトルからいろいろなことを想像させますが、宿題をまとめて先にやろうということなのかと読むこともできます。ただ、これだけでは情報量が不足していて、どういう狙いなのか考えが広がりません。ノートに書かれた文字を見せたり、周囲の状況をもう少し入れるなどの工夫があってもよかったところです。

37「白いダム」
奥多摩湖はエリア外になります。コンテストには規定があるので、まずはしっかり読んでから応募するようにしましょう。人の手が作り出したダムの曲線を活かした撮影ができています。うっすらと雪化粧したところに優しい光が当たって写真が生き生きしています。

38「近未来」
鉄塔やアンテナといった人工物を使ってその向こうには富士山という構成で近未来のイメージを構築しています。手前を黒く潰したことで小さい存在である画面中央の鉄塔と富士山に目を向く構成になっています。大胆な構成の作品づくりはぜひ今後も続けて欲しいですね。

40「ひと休み」
蝶が花に止まってひと休みしているというのがこの作品のポイントです。ただその主役がやや埋もれてしまったのが惜しいです。撮影ポジションを数センチ単位で動かし、暗い背景の部分に重ねることができればよかったですね。飛び立ってしまうので素早く撮るようにします。

第 8 回あきる野フォトコンテスト作品集

令和 5 年 3 月発行

発　行：第 8 回あきる野フォトコンテスト実行委員会

住　所：東京都あきる野市二宮６８３（あきる野市中央公民館内）

電　話：０４２（５５９）１２２１